

学位授与番号：甲 955 号

氏 名：梶原千絵子

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 26 年 2 月 12 日

学位論文名：

日本人男性労働者のメンタルヘルス、仕事のストレス、性格傾向について

主論文名：

Mental health, job stress, and character traits in Japanese male workers.

（日本人男性労働者のメンタルヘルス、仕事のストレス、性格傾向について）

学位審査委員長：中山和彦教授

学位審査委員：馬目佳信教授、宮田久嗣教授

論文要旨

(2部提出)

論文提出者名	梶原千絵子	指導教授名	柳澤裕之
<p>主論文題名</p> <p>Mental health, job stress, and character traits in Japanese male workers (日本人男性労働者のメンタルヘルス、仕事のストレス、性格傾向について) Chieko Kajihara, Katsuhito Itoh, Agata Toshihiko, Machi Suka, Hiroyuki Yanagisawa Jikeikai Medical Journal 第60巻4号</p> <p>・目的</p> <p>本研究は、メンタルヘルスに影響を及ぼす要因として、職業性ストレスだけでなく性格傾向も含めて検討し、職場におけるメンタルヘルス対策に資することである。</p> <p>・方法</p> <p>2009年～2011年に日本国内にある某企業3社の社員各100人に対し質問紙を配布した。3社の内訳は①鉄道の線路の管理をする会社(n=90)、②ホテルの運営をする会社(n=53)、③美術館など建物の設計をする会社(n=64)である。回答が得られた207名のうち、女性(18人)・性別に記載なし(12人)・欠損値を認める回答者(14人)は除外し、163人を解析対象とした。163人をメンタルヘルス正常(n=34)、不調(n=32)、その他(n=97)に分類し、メンタルヘルス正常・不調の2群で解析を行った。</p> <p>・結果</p> <p>メンタルヘルス不調に関わる要因として、仕事量の多さ・仕事への適性感・職場内のトラブルに対する相談体制の有無、性格傾向では「過去のことが気になっていつまでも悩む」性格が関連していた。</p> <p>・結論</p> <p>メンタルヘルスに及ぼす要因は仕事の量的負荷などのほか、性格傾向も含まれていた。職域におけるメンタルヘルス対策では仕事の量・質的負担の検討のほかに、労働者個人の性格傾向について把握し、適切な心理学的アプローチをすることが必要と思われる。</p>			

梶原氏の学位申請論文は主論文1編、副論文2編からなり、主論文はMental health, job stress, and character traits in Japanese male workers(日本人男性労働者のメンタルヘルス、仕事のストレス、性格傾向について)である。本論文はJikeikai Medical Journal 第60巻4号に掲載されている。

以下、学医申請論文の要旨と審査結果の要旨を記載する。

過重労働は心身の健康に重大な影響を与えることは広く知られている。うつ病などメンタルヘルスの不調は、休職するなどの対応をしなければならず、労働力の不足となり深刻な問題となっている。職域におけるメンタルヘルスの先行研究では、仕事の量的負荷・質的負荷とメンタルヘルスとの関連を調べたものが多くあるが、本研究ではこれらの要因以外に、個人のストレスの受け止め方が影響を及ぼす個々の性格傾向も含めて検討し、職場におけるメンタルヘルス対策に資することとした。

2009年～2011年に企業3社の社員各100名に対し質問紙による調査を行った。3社の内訳は①鉄道の線路の管理をする会社、②ホテルの運営をする会社、③美術館など建物の設計をする会社であった。回答が得られた207名のうち、有効例163名を対象とし、メンタルヘルス不調なし($n=34$)・不調あり($n=32$)・その他($n=97$)に分類し、メンタルヘルス不調なし、不調ありの2群で比較をした。

なお調査票は「職業性ストレス簡易調査票」、「業務上における心理的負荷評価票」、性格傾向の評価には、「さわやか・フレンズ」を使用した。

メンタルヘルスの判定については、職業性ストレス簡易調査票の心理的ストレス反応の5つの尺度、イライラ感、疲労感、不安感、抑うつ感があるに該当するものを、メンタルヘルス不調あり、5つとも該当しない人をメンタルヘルス不調なしとしました。1～4項目に該当する人はその他とした。この2群間で統計解析を行った。

有意差のあったものは「非常にたくさんの仕事をしなければならない」、「すぐ仕事に就ける状態を求められるようになった」、「仕事の内容が自分にあっていない」、「職場内のトラブルを相談できる場所がない」、「過去のことが気になってくよくよ悩む方だ」であった。

メンタルヘルス不調に関わる要因として、仕事量の多さ・仕事への適性感・職場内のトラブルに対する相談体制の有無、性格傾向では「過去のことが気になっていつまでも悩む」自信のなさを表す性格が関連していたことがわかった。

メンタルヘルスに及ぼす要因は仕事の負荷のほか、「過去のことが気になって悩む」自信のない性格傾向も含まれていました。先行研究でも自信

のなさは精神的に不健康に影響することが報告されており、本研究の結果と矛盾しなかった。性格傾向を改変することは容易ではないが、個人の性格傾向をよく把握し、適切な精神科的、心理学的アプローチをすることが有用と思われた。

平成16年1月30日、馬目佳信教授、宮田久嗣教授御臨席のもと、公開学位審査会を開催致し、活発な質疑、討議が行われた。その席ではメンタルヘルスの明確な判定基準はどのように設定しているか、2群間の統計処理を行った際の使用した解析法を選んだ理由は何か、仕事の質的および量的負荷とメンタルヘルスとの関係は先行研究と一致しているか、対象の3つの会社の職種の違いの影響はどうであったか、性格傾向で有意差のあったのは1つしかなかったが、その傾向など他の項目で可能性のありそうな項目がなかったか、対象とした例は健常者であるのか、性差についてはどうかなど多数の質問が出た。それに対して梶原氏は的確な意見を述べた。審査委員会後に慎重に審議した結果、梶原氏の論文は学位論文として十分な価値があると判断した。